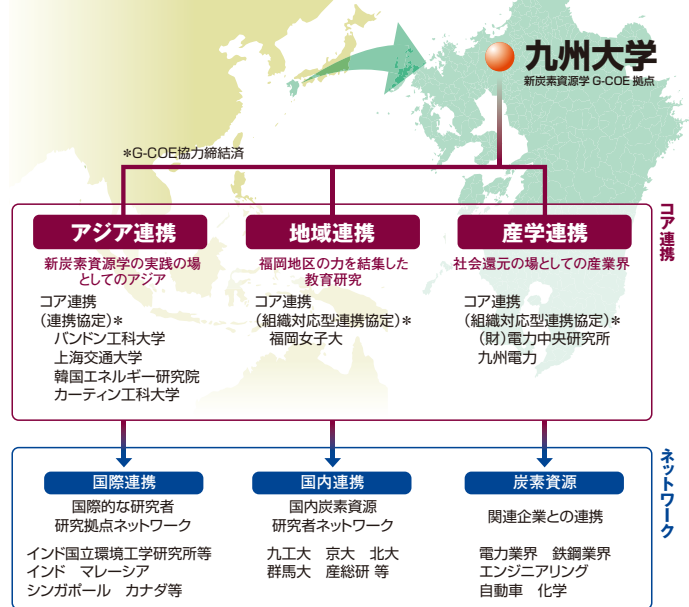


グローバルCOEプログラム 「新炭素資源学」の概要

九州大学グローバルCOEプログラム「新炭素資源学」は、九州大学と福岡女子大学が連携して申請し、平成20年度に発足しました。本G-COEは、炭素資源の有効利用と地球環境を守る科学技術を2大学8つの専攻で追求し、グローバルな視点で若手研究人材を育成するプログラムです。石油、石炭等の炭素資源は、エネルギー源だけでなく、化学原料として人類の生活になくてはならないものです。2008年夏の原油価格の急騰は、リーマンショックを契機にした世界的な経済危機の前に大幅な価格下落という事態で最高価格の3分の1に低下しましたが、その後じりじりと上昇しています。これは、発展途上国の急激な経済発展に伴う資源の争奪戦、ひいては、枯渇が基本的問題として継続的に存在していることを意味します。石油が幅広い物質文明に広く関与しているのに対し、石炭は地球上に広く存在し埋蔵量も多いことからエネルギー資源として火力発電に用いられています。低質な石炭の不用意な利用は、大気環境汚染源の窒素酸化物、硫黄酸化物などによる越境汚染を生み、また、地球温暖化の原因とされる大量のCO₂を発生する、等の問題が身近なものとなり、その解決が求められています。エネルギーをいかにバランスよく、効率的に、環境負荷なく作り出し、快適な人間生活を維持するのか?さまざまな解が世界中で模索されている中で、本G-COEは、次世代の環境負荷なき社会を作るために、その極限までの炭素資源有効利用科学技術の開発と、低消費エネルギー社会を実現する炭素資源由来の材料開発を推進し、先端研究を通じて未来戦略の立案と現実的な問題を解決する若手人材を育成することにより、その解決を図ろうとしています。

拠点リーダー 永島 英夫

九州大学=石炭研究の**伝統・将来構想(新学術領域・アジア指向)**・
「エネルギーキャンパス実践プラン」
北部九州=**アジアの窓口、多数の最先端石炭利用商業機、実証研究設備**が集中



堅実なコア連携による教育・研究→国際的ネットワークによる拠点活動

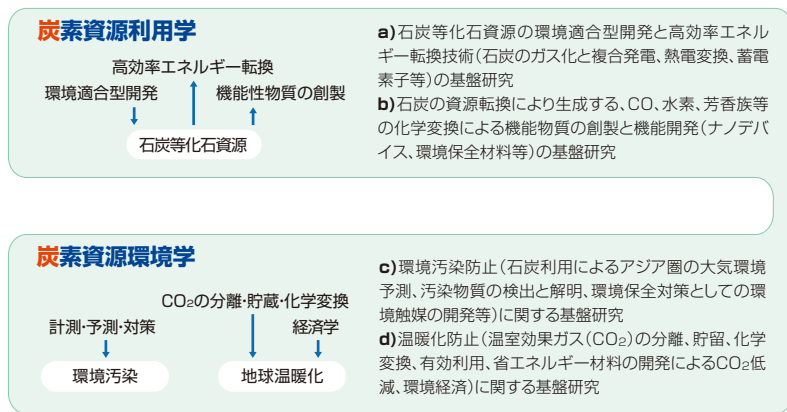
地域、アジアとの連携

本拠点はアジアに開かれた九州大学と北部九州の特性を活かして運営しています。中国、韓国、インドネシア、インド、オーストラリア等の大学、研究機関との双方向型研究・教育交流、福岡女子大学との国際連携・

教育を実施しています。また、公開講座を通じた地域の皆さんとの情報共有、地域としても全国的、国際的にも産学連携研究を推進しています。

2つの学問分野の開拓と融合

本拠点では「新炭素資源利用学」で、石炭等炭素資源の賢い利用法、すなわち、極限まで効率をあげたエネルギー利用と炭素資源から得られる材料、デバイス、とシステムを組み合わせさせた省エネルギーを追求する一方、炭素資源環境学で、環境変動を理解し、経済、理工学双方の立場からその解決を図っています。これらの融合による新しい学問分野、「新炭素資源学」の確立が本拠点の使命です。



新炭素資源学

石炭エコイノベーションを実現する人材の育成

博士後期課程学生および研究員募集

本拠点では、国内外から広く学生および研究員を募集しています。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL: <http://ncrs.cm.kyushu-u.ac.jp>